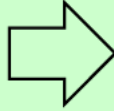


集積・集約したほ場で飼料作物を収穫し畜産経営規模拡大 ～高橋 先雄～

経営体の概要

事業実施前：平成15年度
基幹作物：飼料用稲3.5ha
経営面積：3.5ha



現在：平成30年度
基幹作物：WCS用稲9ha、牧草12ha
その他飼料作物の作業受託
経営面積：21ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

本経営体は、畜産農家として肉用牛（繁殖用）の飼育と、飼料用作物を所有する水田で栽培。平成18年度に、ほ場整備後の営農が本格化する中で、事業を契機に、飼料作物の栽培面積を拡大。大区画化し、集積・集約された水田で、WCS用稲、牧草の栽培を行うことで、飼育頭数も増加し、農業生産性が向上している。なお、事業を契機にブロックローテーションに対応するために設立された集落営農組織は、転作のWCS用稲、牧草の栽培を農業機械を所有する本経営体へ委託している。

営農改善のポイント

① 規模拡大・土地利用調整

事業を契機に、ブロックローテーションで転作に取り組んでいくため設立した集落営農組織から、WCS用稲、牧草栽培の作業を受託している。ほ場整備により大区画で排水性が改善された水田になったことから、一般に集落営農組織で取り組むWCS用稲、牧草栽培を一手に引き受けることができ、規模拡大に繋がっている。

② 省力化

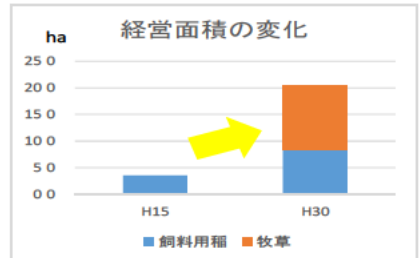
大区画化により農地が集積・集約したことから農作業はかなり軽減された。更なる省力化を図るために、WCS用稲は湛水直播栽培（鉄コーティング）を行っている。

また、繁殖用肉用牛の飼育頭数も50頭から130頭に増加し経営規模が拡大している。

③ 作物の変化

事業により暗渠が整備され排水改良されたことから、WCS用稲のほかに新たに牧草（イタリアンライグラス等）の栽培が可能となった。

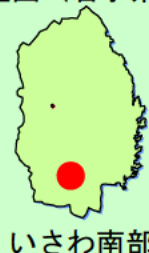
また、WCS用稲、牧草の生育・収量も向上している。



事業概要

事業種：国営農地再編整備事業
関係市：奥州市
受益面積：1,352ha
事業期間：平成10年度～平成22年度
事業目的：区画整理
主要工事：区画整理1,090ha、農地造成10ha
農道L=8.2km、排水路L=4.3km

位置図（岩手県）



<問い合わせ先>

東北農政局
農村振興部農地整備課
電話：022-263-1111
(内線4460)

(平成29年度調査時点)